



2009年3月期決算説明会

09年6月4日

デリカフーズ株式会社

ホームページ: <http://www.delica.co.jp/>
お問い合わせ先: 経営企画部部长 田井中俊行
TEL: 03-3858-1037
E-Mail: tainaka@n-delica.co.jp



本日の要旨

- 09年3月期決算概況
- 10年3月期決算見通し
- 今期の取組み
- 当社のビジョン
(代表取締役舘本勲武)
- 質疑応答

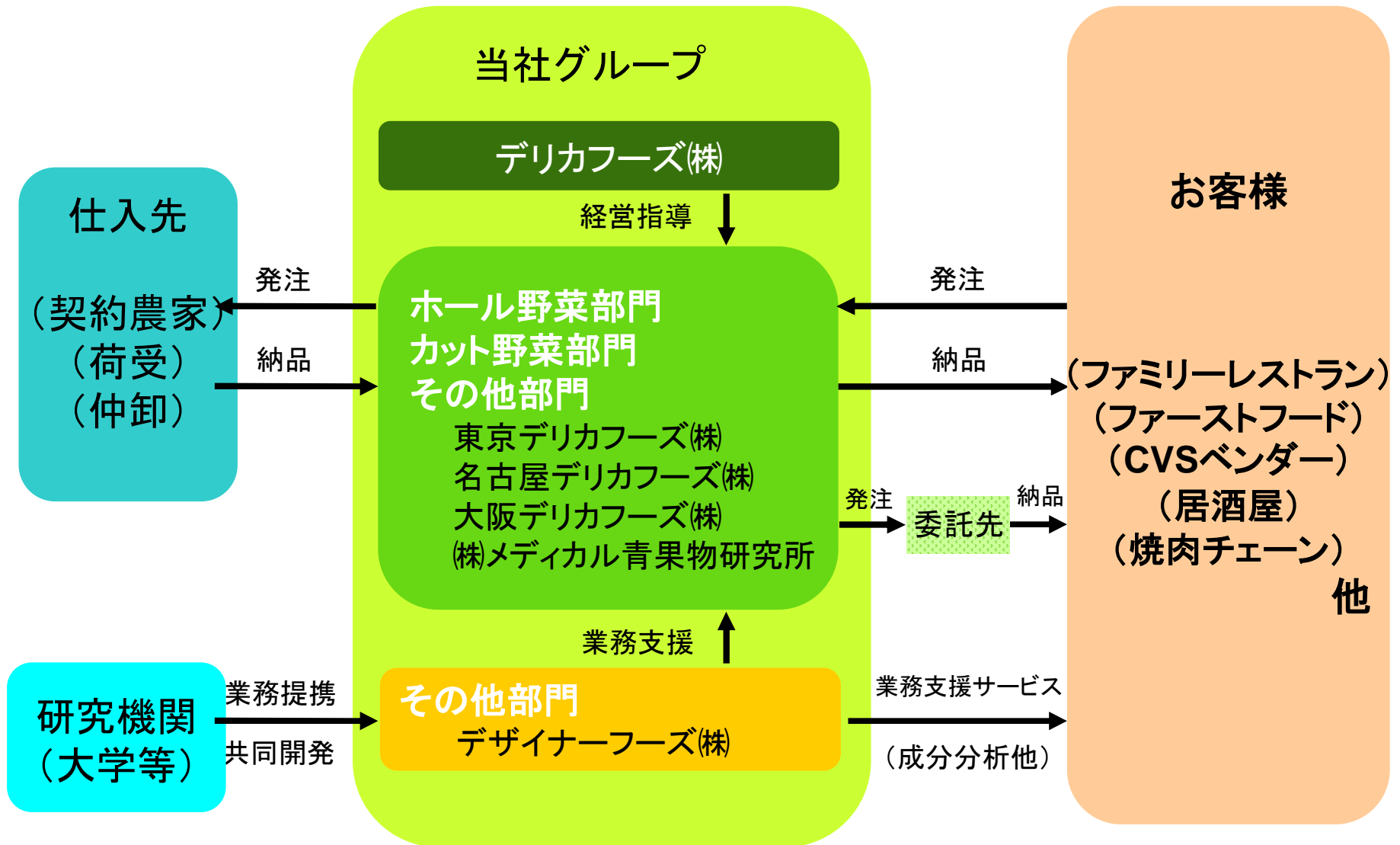


会社概要

- 株式上場 平成17年12月6日 東証二部上場
- 設立 平成15年4月1日(持株会社設立日)
(昭和54年10月6日創業)
- 所在地 東京都足立区保木間二丁目29番15号
- 資本金 759百万円
- 社員数 193名(平均臨時雇用者数:767名)
- 関係会社 東京デリカフーズ(株)
名古屋デリカフーズ(株)
大阪デリカフーズ(株)
デザイナーフーズ(株)
(株)メディカル青果物研究所
- 事業内容 ホール野菜の販売、カット野菜の製造販売等

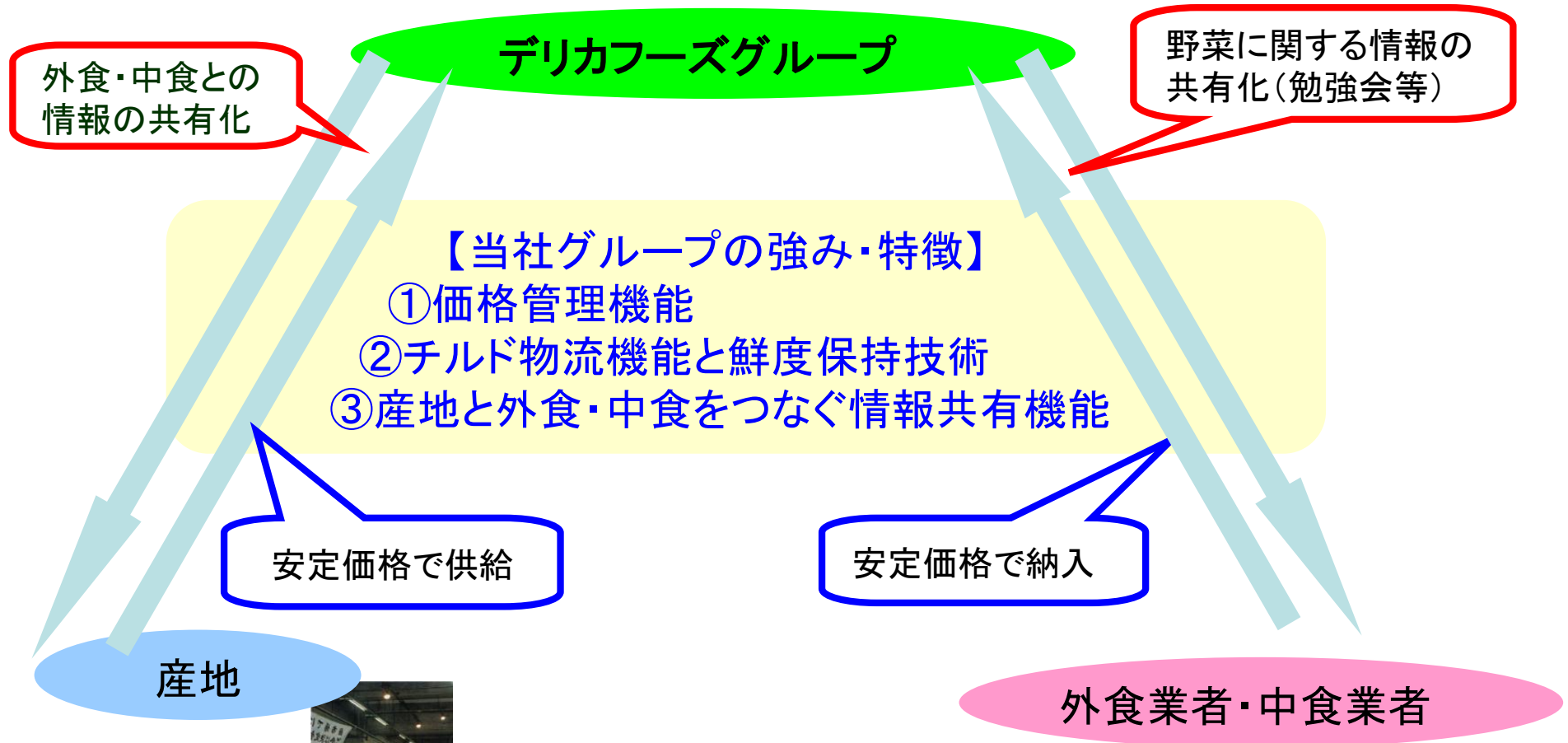


事業系統図



当社の特徴・強み

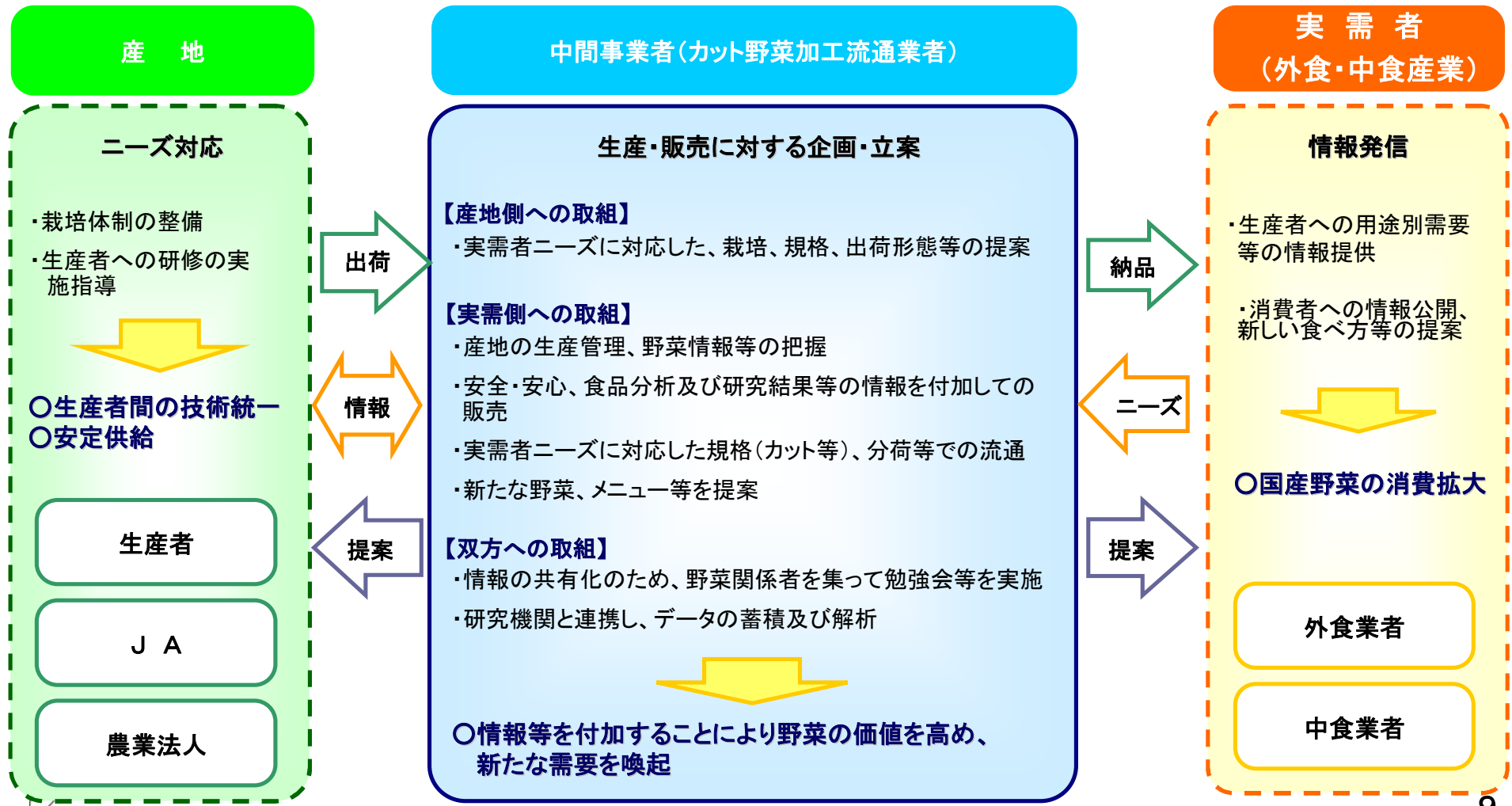
産地・製造・物流・メニュー提案のトータルコーディネイター



(参考:農林水産省の取組み)

「中間事業者」を介した供給経路の構築
(カット野菜の多様な実需者への安定供給)

- 野菜のカット加工や流通を手がける中間事業者は、複数の産地、外食や中食など複数の実需者と契約をし、産地側に対しては実需者ニーズに対応した規格、荷姿、出荷形態を提案。
- 実需者に対しては、産地の生産管理や野菜情報の把握、原材料の安全・安心に係る情報の提供、ニーズに応じたカット加工や分荷、新たなメニューを提案。
- また、産地と実需者の双方の間で情報の共有化を図るとともに、研究機関とも連携した業務データの蓄積・解析の機能も担っている。



基本戦略

目標：利益率の向上

施策1 新規顧客獲得と重点取引先の深耕

主たるターゲット

新規開拓先 外食産業：ホール野菜を導入とする

重点取引先 給食、食品メーカー・問屋：カット野菜への展開を図る

施策2 体質強化

コスト管理の徹底：原価率対応、物流コスト管理、お客様への適正販売価格維持



09年3月期決算概況



09年3月期決算報告に当たって

事業環境

平成20年1月に発生した中国製冷凍ギョウザ中毒事件以降、国産野菜の需要が高まり、野菜価格が高騰した

原油・ガソリンの急激な高騰により、物流費、資材等が上昇し一時的に原価率が上昇した

平成20年9月以降の世界的不況の影響を受けた国内経済の急激な減速により、平成21年1月以降売上、利益とも大幅に減少した

当社の対応

契約産地との安定供給体制を強化し、契約栽培面積を拡大した

物流網の再構築による物流コスト削減と販売価格の改定を行なった

原価率を状況に応じて素早く低減する等の体質強化に努めたことにより、景気低迷の影響を最小限に食い止めた



09年3月期決算ハイライト

	08年3月期実績		09年3月期実績				
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	計画 (百万円)	計画比 (百万円、%)	前期比 (百万円、%)
売上高	19,425	100.0	19,503	100.0	20,100	△596(△3.0)	77(+0.4)
営業利益	654	3.4	632	3.2	684	△51(△7.6)	△22(△3.4)
経常利益	649	3.3	609	3.1	650	△40(△6.2)	△39(△6.1)
当期純利益	380	2.0	346	1.8	370	△23(△6.4)	△34(△9.0)
総資産	7,431	100.0	8,364	100.0			+932
純資産	3,651	49.1	3,884	46.4			+232

* 総資産増加の理由は、工場用土地を取得したため



部門別売上高増減分析



■ カット野菜部門

① 昨年度竣工した大阪デリカフーズ株式会社兵庫工場と横浜センターの温野菜の売上が増えたが、外食全般の取り扱い量減少により売上が微減。構成比は31.6%(売上高の前期比 $\Delta 0.3\%$)となる。

■ ホール野菜部門

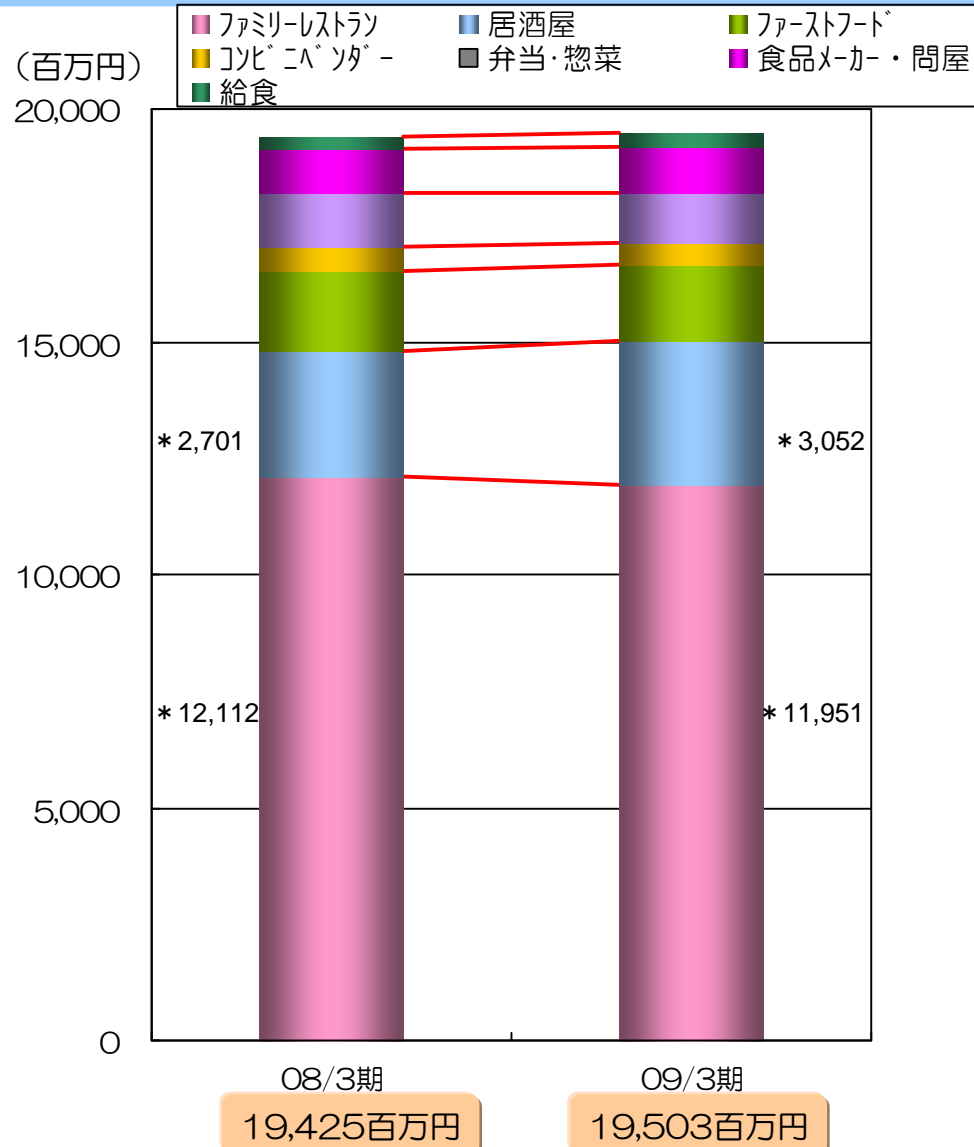
① 新規顧客獲得に努め、売上が拡大。構成比は54.6%(売上高の前期比+2.2%)となる。

■ その他

① 卵の取り扱い量減少により、売上が微減。構成比は13.8%(売上高の前期比 $\Delta 4.7\%$)となる。



業態別売上高増減分析



■ファミリーレストラン

⌚ 後述の新規開拓効果により、既存取引件数は増加したが、1件あたりの取引額は減少した。そのため、前期比△1.3%となる。

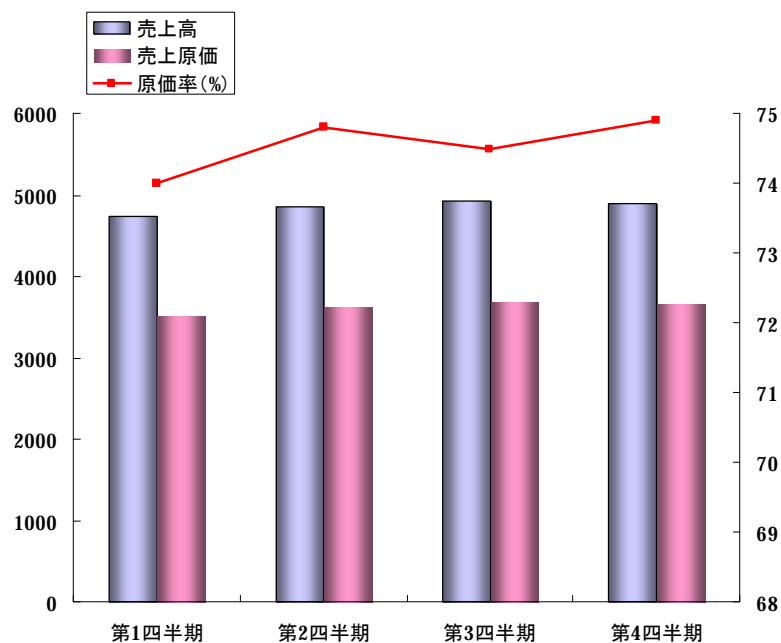
■居酒屋

⌚ 大口新規顧客開拓により、前期比12.9%増加した。



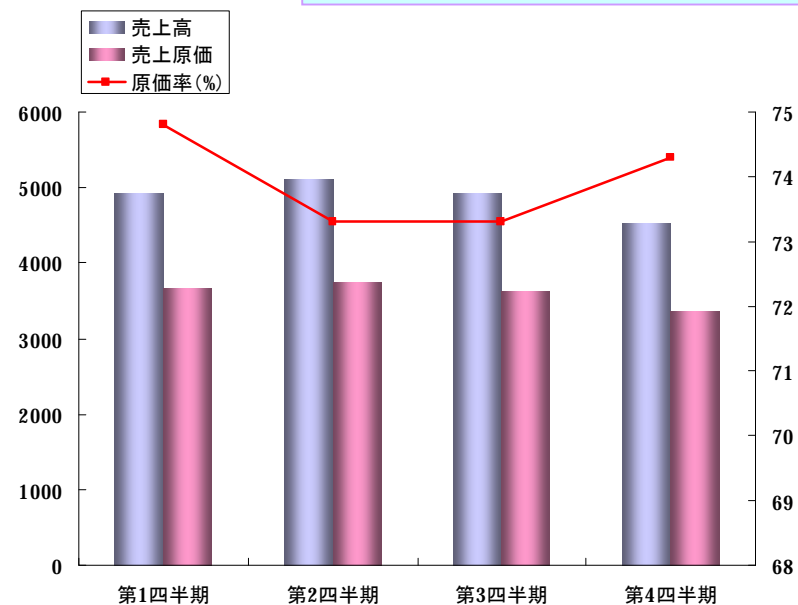
08/3期と09/3期の四半期毎の 売上高と売上原価の推移

08/3期
第4四半期売上高
4,898百万円



08/3期 原価率74.5%

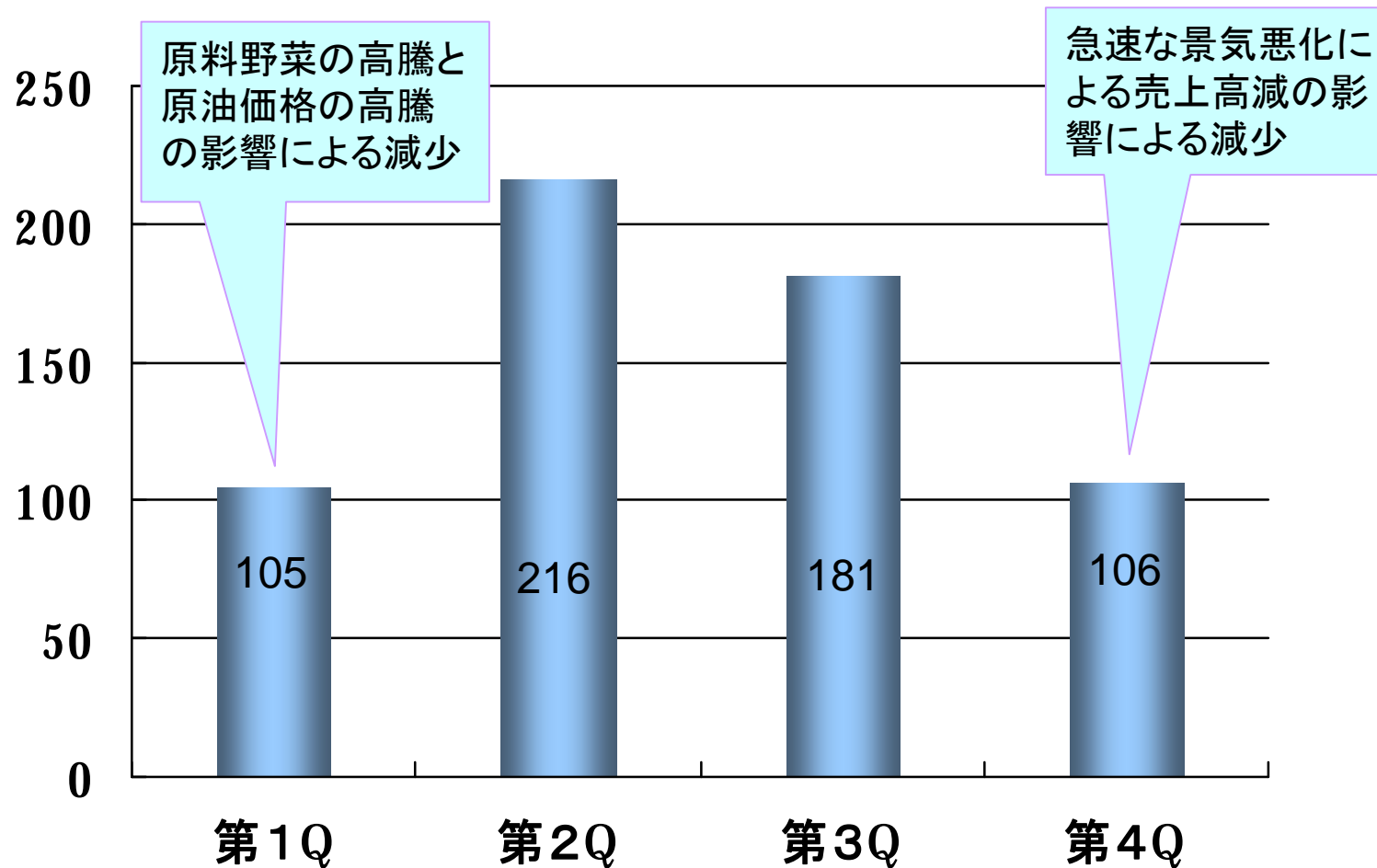
09/3期
第4四半期売上高
4,530百万円
(前期比367百万円減)



09/3期 原価率73.9%



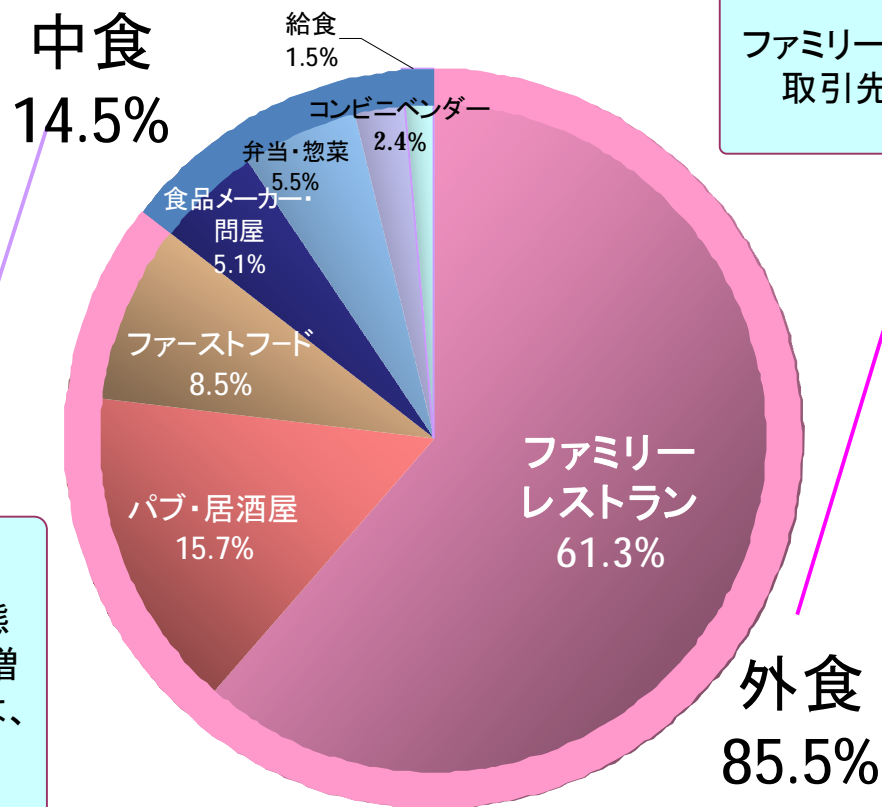
四半期ごとの経常利益推移



取引先の状況

中食の構成比を今期20%目標 3年後で30%目指す

09年3月期業態別売上構成比



ファミリーレストラン他外食で既存稼動取引先に対し13%増加。

新規開拓先
(対既存稼動取引先)
実績26%増加

新規開拓先
(対既存稼動取引先)
実績13%増加

コンビニエーター他中食で既存稼動取引先に対し26%増加。業態別では引き続き中食の構成比増を目指し、具体的なターゲットは、給食事業と食品メーカー・問屋業態で売上拡大に取り組む



10年3月期決算見通し



10年3月期決算見通しの前提

事業環境見通し

世界的不況の影響を受け、平成21年4月以降も非常に厳しい状況が続くことが予想される
雇用環境の悪化による個人所得の減少に伴い、外食需要は前年よりも大幅に減少すると予想される

売上高減少に伴い、当社グループの工場・センターの固定費比率が上昇し、一時的に利益率が減少する

当社の見方

新規顧客獲得と重点取引先の開拓に努めますが、通期を通しての売上高は前期比5%程度減少することが見込まれる

景気が回復基調に入れば、これまでに培った原価率低減等の体質強化の効果もあり、徐々に回復が望める



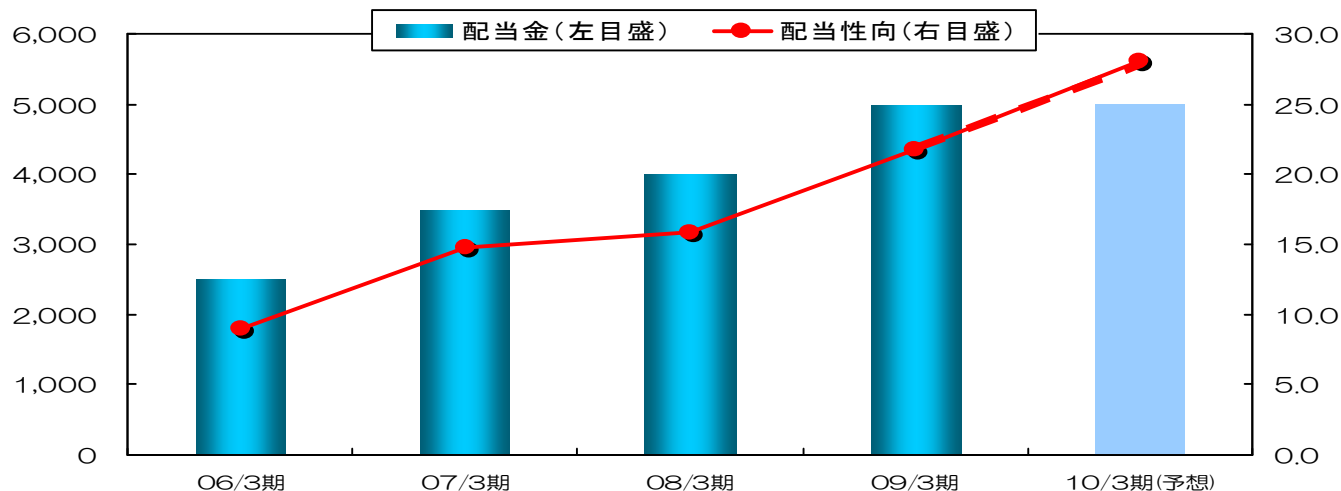
10年3月期決算見通し

	09年3月期実績		10年3月期見通し		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (百万円、%)
売上高	19,503	100.0	18,500	100.0	△1,003(△5.1)
営業利益	632	3.2	490	2.6	△142(△22.5)
経常利益	609	3.1	450	2.4	△159(△26.2)
当期純利益	346	1.8	261	1.4	△85(△24.7)
総資産	8,364	100.0			
純資産	3,884	46.4			



株主還元の考え方

配当原資確保のための収益力強化を図りながら、継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております



(基準日)	1株当たり配当金						配当金総額 (年間) 百万円	配当性向 (連結) %	純資産 配当率 (連結) %				
	第1 四半期末		第2 四半期末		第3 四半期末					期末		年間	
	円	銭	円	銭	円	銭				円	銭	円	銭
20年3月期	—	—	0	00	—	—	4,000	00	4,000	00	60	15.9	1.7
21年3月期	—	—	0	00	—	—	5,000	00	5,000	00	73	21.7	2.0
22年3月期(予想)	—	—	0	00	—	—	5,000	00	5,000	00	—	28.1	—

自己株式取得の状況

09年3月期 960株取得 金額174百万円



今期の取組み

ポイント：厳しい環境下での業績維持

施策1：新規顧客獲得と重点取引先の深耕を継続

施策2：温野菜の本格稼働と収益寄与に向けて

施策3：東京、名古屋、大阪のセミナーを通じて、野菜の啓蒙を取引先に対して継続して行なう



施策1：新規顧客獲得と重点取引先の深耕を継続

全国営業会議（デリカフーズ）

東京デリカフーズ営業部

名古屋デリカフーズ営業部

大阪デリカフーズ営業部

- ・全国営業会議を2ヶ月に1回開催している（各事業所持ち回り）
- ・1月開催の全国営業会議で、各事業所営業部員に対し、新規顧客獲得でインセンティブをつけた。（2月3月対象）



施策2: 温野菜の本格稼働と収益寄与に向けて

東京デリカフーズ横浜センター テスト製造ライン



当社独自製法による特徴

- ①おいしさを示すグルタミン酸が多くなる。
- ②抗酸化力が大きくなる。
- ③色が褪せず、中心の部分まで柔らかくなる。

アミノ酸分析器

アミノ酸の分析をすることによって
各野菜の「おいしさ」を見つけました

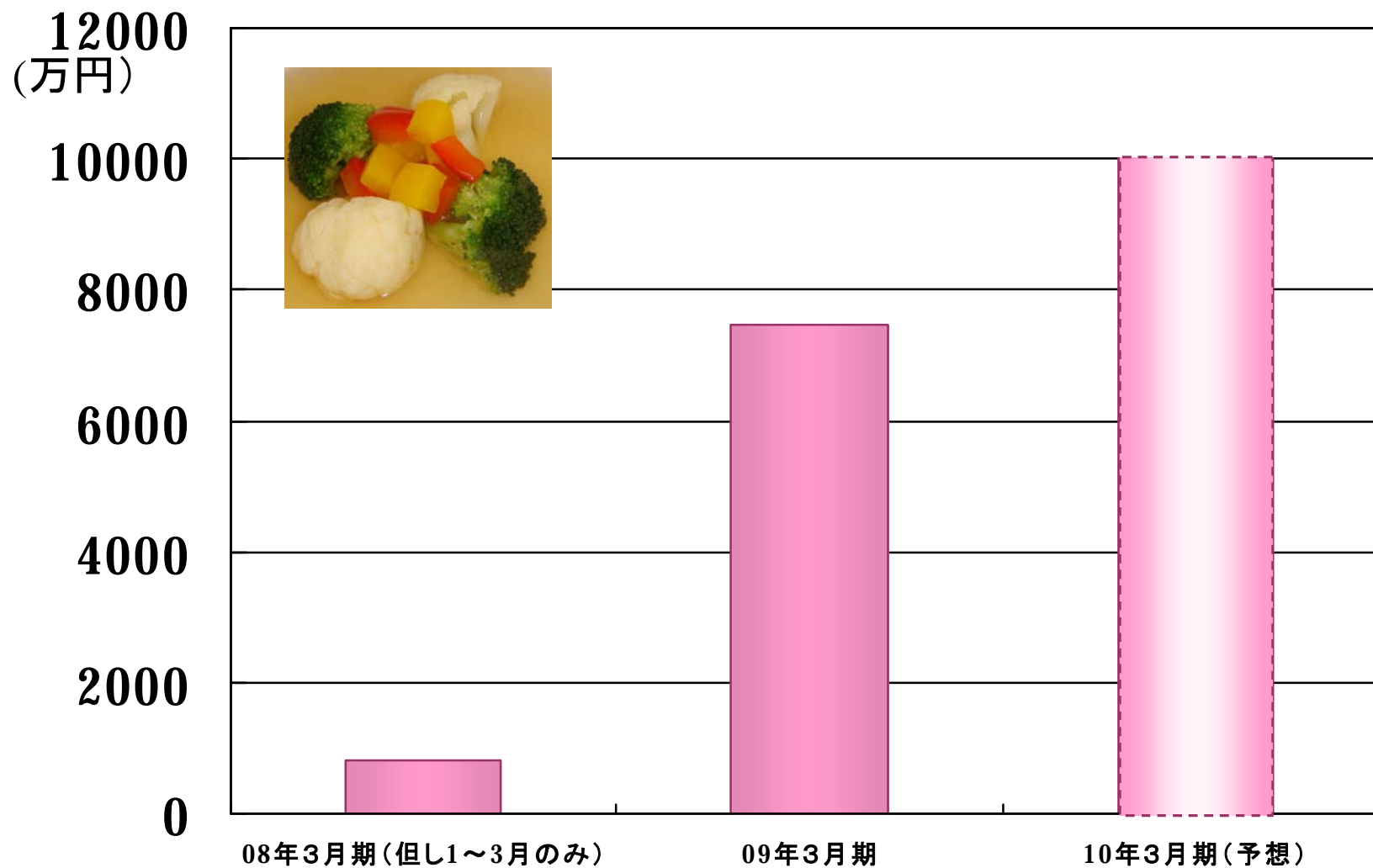


施策2：温野菜の本格稼働と収益寄与に向けて

東京デリカフーズ横浜センター
本格販売製造ライン(H20. 1～)



東京デリカフーズ 横浜センター温野菜売上高推移



施策3: 東京・名古屋・大阪の野菜セミナー

東京デリカフーズ: 健康野菜塾(2ヶ月に1回開催)

(<http://www.delica.co.jp/research/library/vesi/tokyo.html>)

第23回健康野菜塾
～色のカとカラフル野菜～
(2009/05/14開催)



第22回健康野菜塾
～食業界 最新情報～
(2009/03/19開催)



第21回健康野菜塾
～フードアイコン最新情報～
(2008/11/14開催)



第20回健康野菜塾
～食を通じて健康になろう～
(2008/09/18開催)



第19回健康野菜塾
～過熟野菜、本稼働!!～
(2008/07/24開催)



第18回健康野菜塾
～最新食情報・柔らか野菜～
(2008/05/22開催)



名古屋デリカフーズ: ザ・ベジタブルセミナー(2ヶ月に1回開催)

(<http://www.delica.co.jp/research/library/vesi/nagoya.html>)

第36回ザ・ベジタブルセミナー
～野菜&魚でヘルシーなキット商品のご提案～
(2009/03/12開催)



第35回ザ・ベジタブルセミナー
～初めて産地で開催～
(2009/01/22開催)



第34回ザ・ベジタブルセミナー
～今がおいしい! 秋野菜 これからの冬野菜～
(2008/11/18開催)



第33回ザ・ベジタブルセミナー
～安全・安心、とことん南瓜&まのこ～
(2008/09/18開催)



第32回ザ・ベジタブルセミナー
～夏の旬野菜 ベジスイーツ特集～
(2008/07/23開催)



第31回ザ・ベジタブルセミナー
～食と環境、エコメニュー～
(2008/05/15開催)



大阪デリカフーズ: 健康野菜セミナー(3ヶ月に1回開催)



Farm to Wellness倶楽部 ～概要～

- 設立日:2009年4月1日
- 事務局:デリカフーズ株式会社 内
- 会 員:一般(生産者)、法人(生産者)、賛助
- 年会費:一般(1万円)、法人(10万円)、賛助(3万円)
- 特 典:
 - ① 野菜分析(野菜の健康診断)を無料受託
一般(1検体/年)、法人(10検体/年)
 - :② 季刊誌*Farm to Wellness*を無料配布(年4回)
一般(1冊×4回)、法人(10冊×4回)
賛助(3冊×4回)
- その他:各種分析試験(野菜・メニュー、土壌等)の相談・受託
各部門機能の運用、研究会への参画



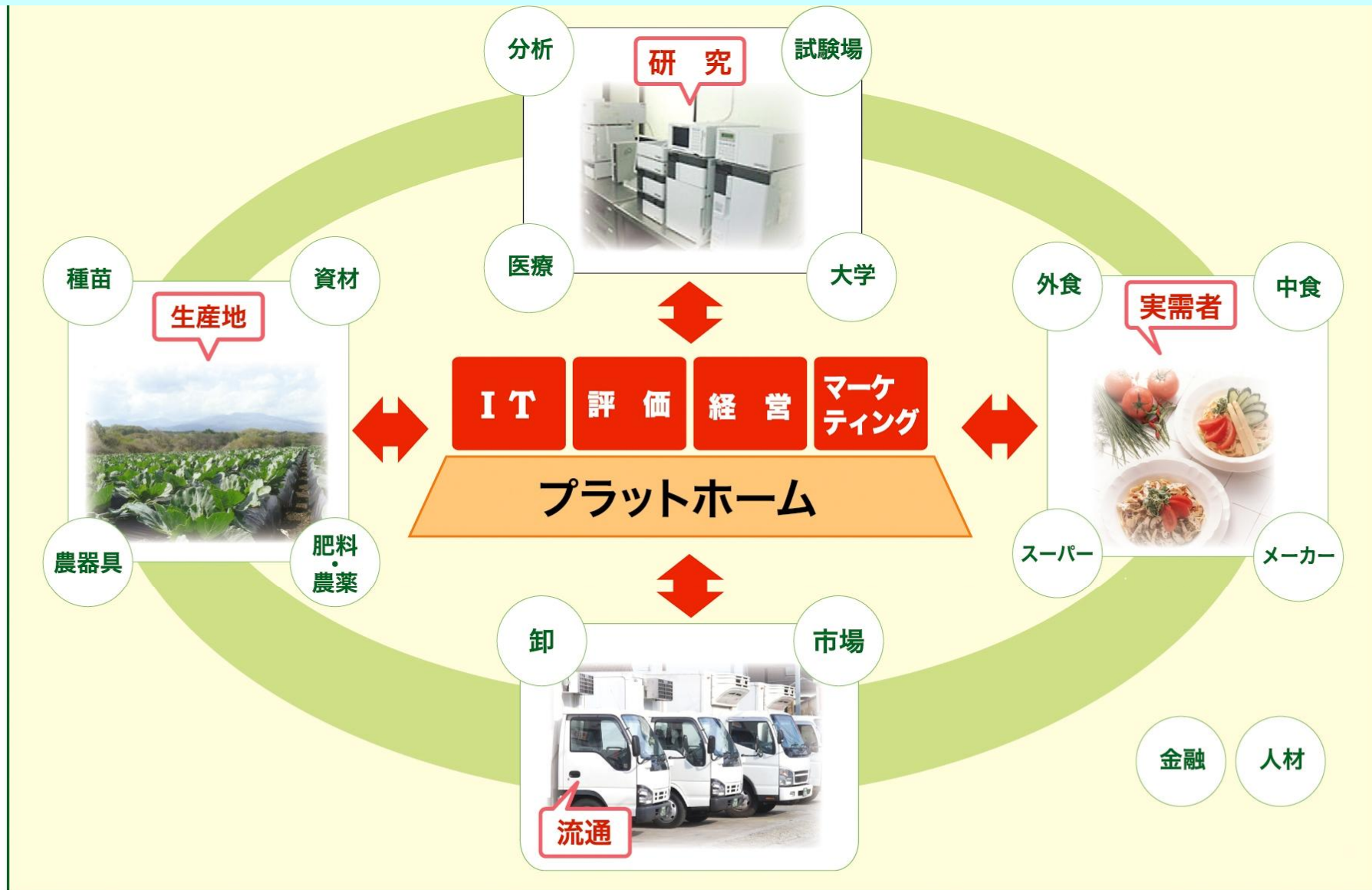
Farm to Wellness倶楽部 ～設立の趣旨～

1. 日本農業の活性化
2. 国民の健康増進（医療費削減）
3. 環境改善

- * 生産地と実需者をつなぎ、各専門機関の相互協力体制の構築を目指す
- * 情報交換や活動の場



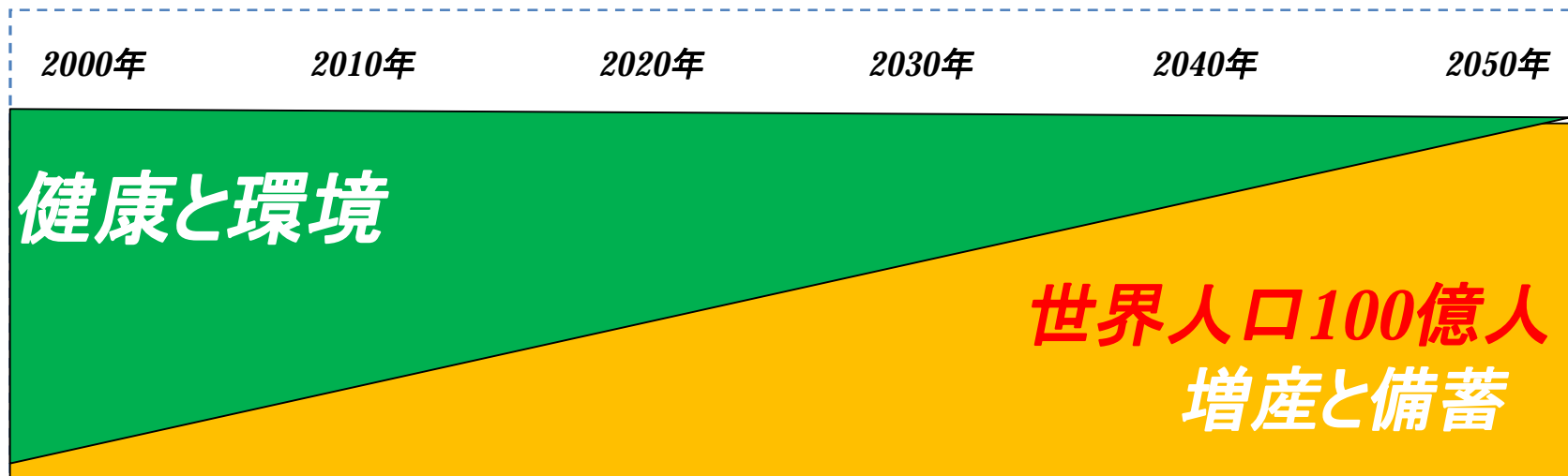
Farm to Wellness倶楽部 全体像



健康な食が健康な国をつくる



デリカフーズグループビジョン



2000～2020年 キーワードは健康と環境

背景

諸外国

★イギリス 健康な食事のための8つの指針（1990年）

★フランス 健康のための7つの秘訣（1992年）

★オーストラリア オーストラリア人の食事指針（1992年）

アメリカ

1970年代・・・生活習慣病・がん患者の増大～2030年には医療費が国家予算の30%と予測

1978年 ヘルシーピープル2000計画

《目標》 要介護高齢者 1000人中90人以下にする

1981年 高齢者の24%が要介護

1989年 23%

1994年 21% ⇒ヘルシーピープル2010として継続中

1990年 デザイナーフーズプログラム ⇒植物性食品によるがん予防計画 ⇒野菜摂取量の増加

日本

少子高齢化、医療費の増大 ⇒2006年医療費33兆円

2000年 健康日本21、2003年 健康増進法

2004年 日本人の食事摂取基準

2005年 食事バランスガイド、食育基本法

⇒メタボリックシンドローム対策 = 特定健診と特定保健指導

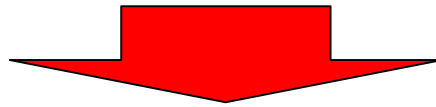


時代背景 アメリカでは？

2030年老人医療保険が国家予算の30%になると予測

1978年 ヘルシーピープル2000計画

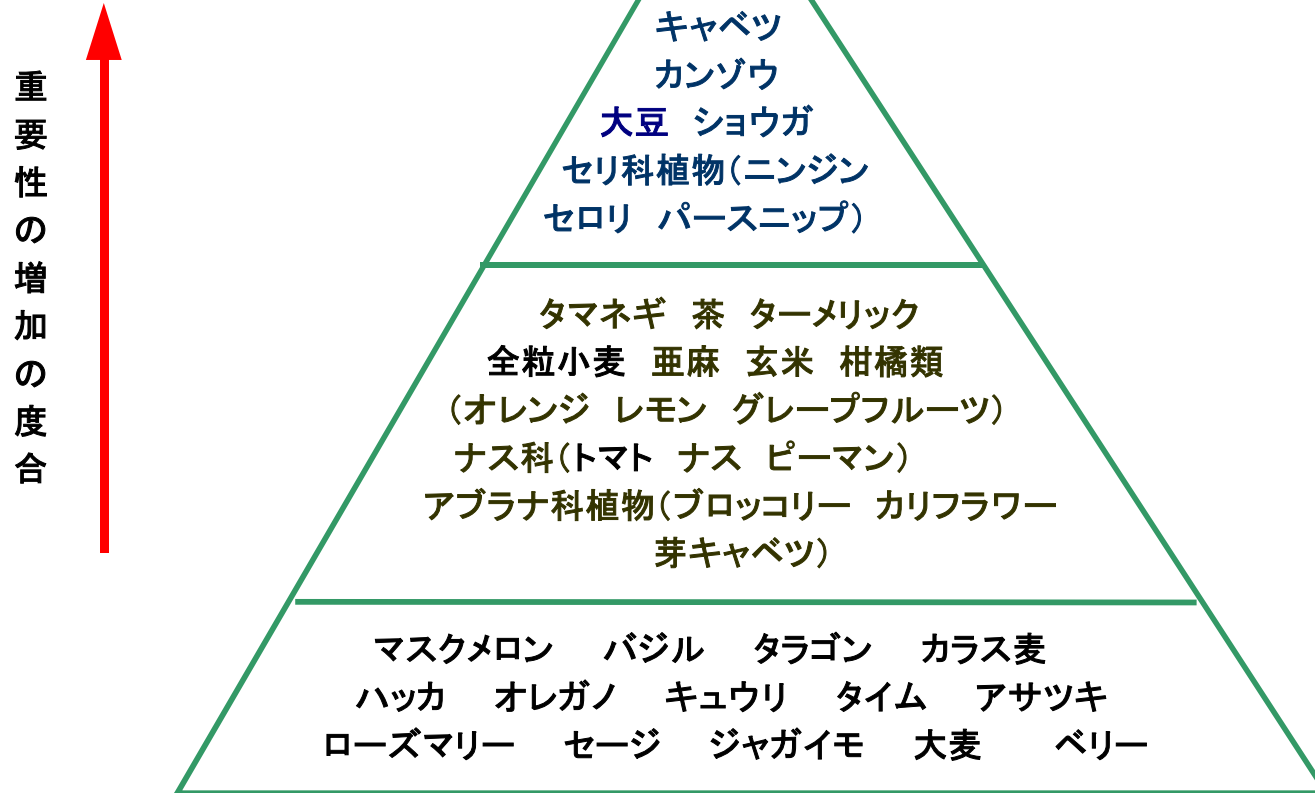
1990年 デザイナーフーズ計画
(植物性食品によるがん予防計画)



官・学・民をあげての国家プロジェクト



老化と癌を防ぐデザイナーフーズリスト



米国国立がん研究所によるデザイナーフーズリスト

1990年、アメリカ国立がん研究所が植物性食品によるガン予防を目的としてデザイナーフーズプログラムの中で発表したフーズリスト

「がんを防ぐ52の野菜」 大澤俊彦 より



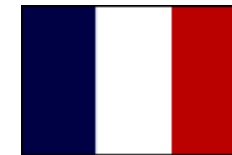
時代背景 他の国では？

「食」、特に「野菜」にフォーカスした国家レベルの「健康」への取り組みが、各国において進展

- ・ 健康な食事のための8つの指針 (1990年 イギリス)



- ・ 健康のための7つの秘訣 (1992年 フランス)



- ・ オーストラリア人の食事指針 (1992年 オーストラリア)



- ・ 中国人のための推奨食事指針 (1997年 中国)



- ・ インド人のための食事指針 (1988年 インド)



時代背景 日本では？

1. 少子高齢化
2. 医療費の増大



医療費削減のための 国の政策と食の考え方の基本

2000年3月31日

健康日本21

2003年5月1日

健康増進法

2004年10月25日

日本人の食事摂取基準

2005年7月

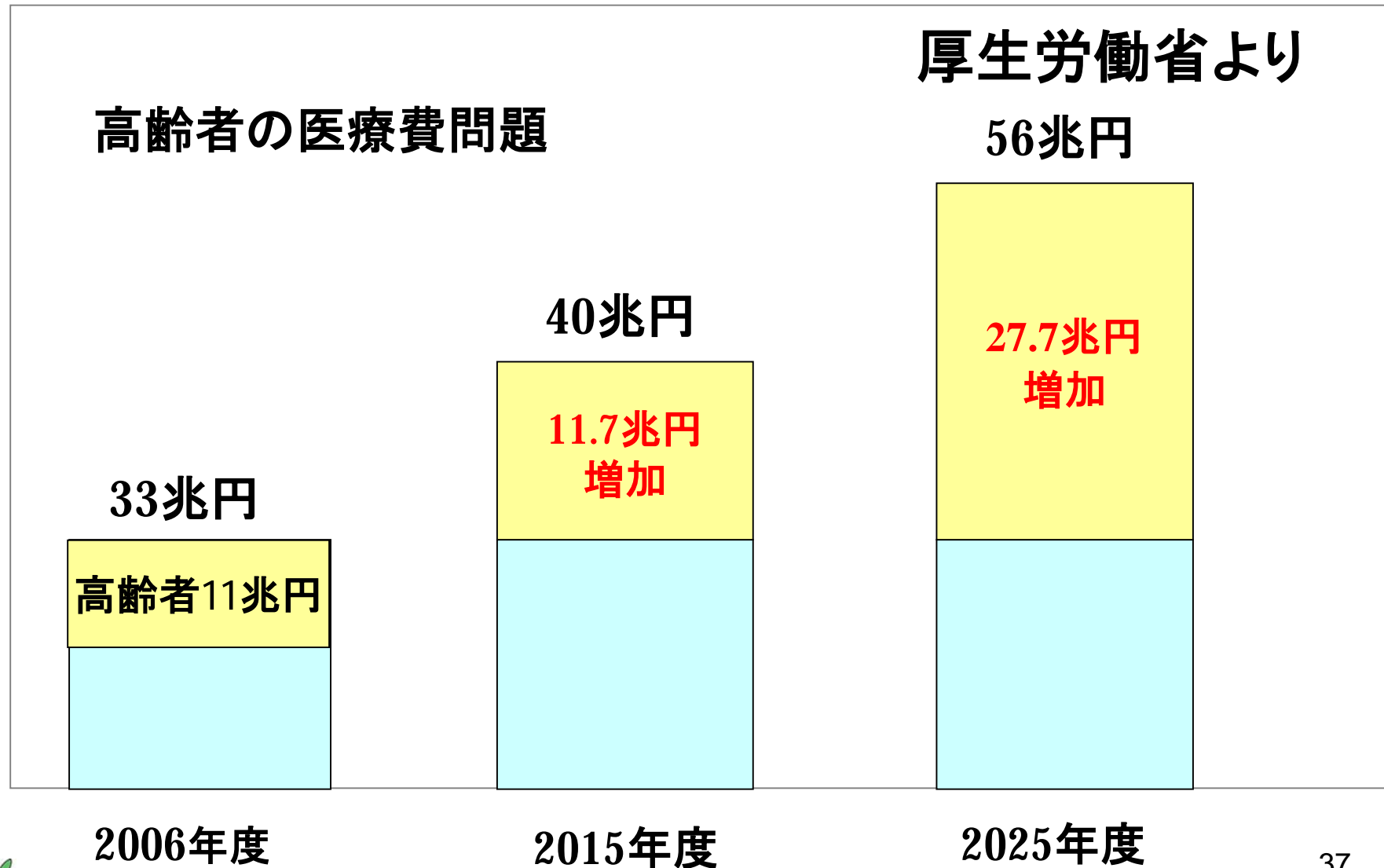
食事バランスガイド

2005年7月15日

食育基本法



医療費増加の問題 将来予測

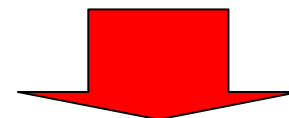


平均寿命と健康寿命



平均寿命 — 健康寿命 = 障害を持った期間

82歳 — 75歳 = 7年



3年が国家として健康

平均寿命よりも『健康寿命』が重要！！



医学会の変化

1953年遺伝子の構造解明（ワトソン:分子生物学者、
クリック:分子物理学者）

⇒栄養学の変化 カロリー栄養学から分子栄養
学へ（遺伝子発現の栄養学）

2000年 ヒトゲノム解析の完了

健康＝遺伝因子＋環境因子（食、運動、癒し）

⇒ 治療医学から予防医学の時代へ

医・食・農連携により、医食同源を実現する必要

食が遺伝子レベルまでつながる

カロリー栄養学

1883年ルブネルがカロリー栄養学を提唱

⇒ 糖質4kcal/g 脂肪9kcal/g タンパク質4kcal/g

分子栄養学

1953年遺伝子の構造解明

科学界において20世紀最大のイベント

- ・クリック(イギリスの物理学者)
- ・ワトソン(アメリカの生物学者)

ノーベル賞受賞

カロリー栄養学 ⇒ 分子栄養学



分子栄養学とは・・・

(遺伝子発現の栄養学)

- ・食べ物細胞・分子・遺伝子レベルまで影響を及ぼすことがわかってきた
- ・微量栄養素や非栄養成分の働きを重要視した総合的な栄養学



健康の定義①

健康 = 遺伝因子 + 環境因子

食事

運動

癒し

人間の健康にとって食は非常に重要な役割



健康で長生きの条件

- ① エネルギーを摂り過ぎない
- ② 抗酸化の高い食事を摂る
- ③ 免疫力の高い食事を摂る



3つの方法で抗酸化力を測定

抗酸化力

野菜・フルーツ
の機能性



DPPH法

産地の評価、旬の発見
10,000検体のデータ

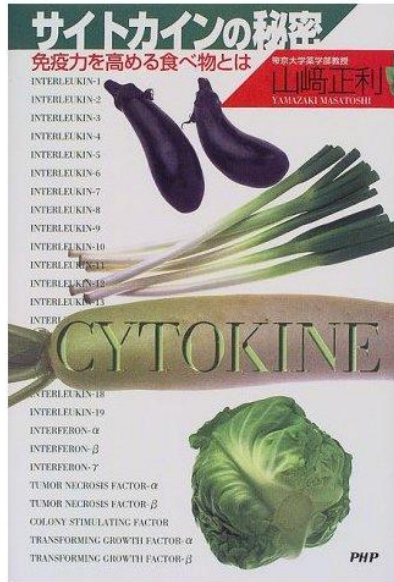
ORAC法

抗酸化力の表示に対応
食品機能性研究会
AOU研究会 との関係

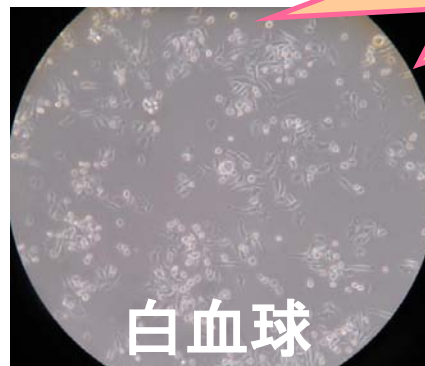
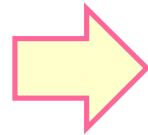
ESR法

食と医学をつなぐ
生体反応に近いデータ

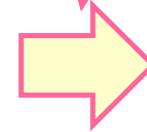
野菜・果物の免疫力



「野菜、果物は、この白血球を増やし、活性化している」



活性化



TNF- α

名古屋医工連携インキュベータ施設



この施設で
3種類の方法で
抗酸化力を測定



DPPH法 公定法



ESR法 電子スピン共鳴装置



ORAC法



No.3 ゼブラフィッシュを使用した実験進捗状況

ゼブラフィッシュを使った研究開発



「ゼブラフィッシュ」とは
第3の実験動物として
NIH(米国衛生研究所)
に認証されています。

(特徴)

- 費用が安い。(一匹約10円)
- 人間の80年の生涯を2年間で表現

経済産業省の
新エネルギー・
産業技術総合開発機構
(NEDO)の予算の採択



トマトの非破壊測定機の完成



値段 ¥130

おいしさ ★★★
抗酸化力 ★★★



役割

生産者 健全な土と水の回復 … 適地適作、旬の作物の栽培

中間業者(流通) **デザイナーフーズ** と **デリカフーズ**

外食を食の病院、スーパーを食の薬局とするためのエビデンス作り
食の流通改革、安心安全、ゴミゼロ運動(リサイクル)

行政(国) 医食農工連携の推進を図り、食べ物で健康な国づくり ⇒ 医食同源を目指す

結果

健康寿命＝平均寿命の世の中、医療費の削減、自給率向上、健全な農業の再生

環境と生態系の保全

⇒ 先進国は農業立国になることが国家の品格



デリカフーズグループ

デリカフーズグループのお客様



デザイナーフーズ株式会社
(医工連携インキュベータ)

営業のバックアップ

デザイナーフーズのお客様

食品メーカー・CVSベンダー・商社・
問屋・中食関係

大学の研究室

共同研究



- ・ 野菜の機能性研究
- ・ 食と健康の関わり研究
- ・ デリカフーズグループの
お客様へのサービス

食に関するコンサルティング

- ・ 商品開発
- ・ 業態開発
- ・ 情報提供
- ・ 人材教育
- ・ マーケットリサーチ

